

life is on.

PHONAK
life is on

A Sonova brand

世界で「聞こえ」に向き合い、75年。

1947年にスイスで誕生したフォナックは、聞こえとつながる健康を研究し、聴覚テクノロジーを磨き続けてきました。聞こえることは、あらゆる喜びの原動力。これからもフォナックは、世界で生きる人々をより良い聞こえで支えていきます。



フォナックの哲学

Well-Hearing is Well-Being™

より良い聞こえは、より健やかで充実した暮らしをもたらす。フォナックはそう考えています。近年では、聞こえの課題に対応することによって、社会・感情的、認知的、身体的ウェルビーイングにプラスの影響がもたらされることがわかってきています*。



ウェルビーイング (well-being) : 「ウェルビーイング」とは、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念です。

*: Vercammen, C., Ferguson, M., Kramer, S.E., et al. (2020). Well-Hearing is Well-Being. *Hearing Review*, 27(3), 18-22.

製造販売業: ソノヴァ・ジャパン株式会社
〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8
天王洲パークサイドビル
フォナック カスタマーサービス
法人のお客様窓口 TEL: 0120-04-4079
個人のお客様窓口 TEL: 0120-06-4079
(受付時間: 月~金 9:00~17:30 土日祝休み)
FAX: 0120-23-4080
許可番号 13B2X10021

フォナック製品のご相談・ご用命は…



6月6日は
補聴器の日

フォナックの最新情報はSNSでチェック!



sonova
HEAR THE WORLD



028-2625-17

2024025-30000

“聞こえにくい” をそのままにしない



ご存知ですか? 難聴と認知症の関係性

愛知医科大学
内田育恵先生
監修



ご存知ですか？

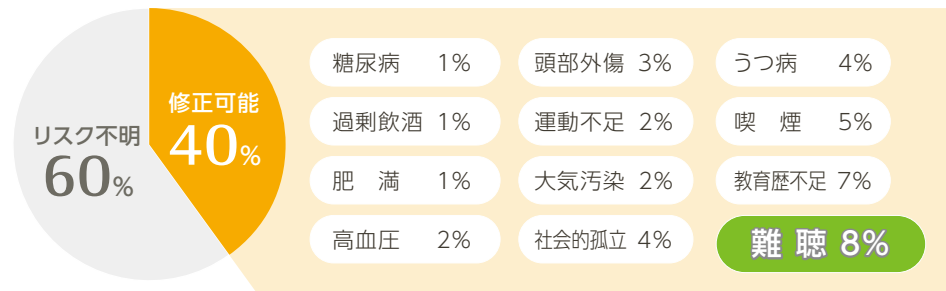
難聴と認知症の深い関係

トピックス

01 難聴は認知症のもっとも大きな危険因子

世界的に有名な医学雑誌「ランセット」の発表によると、認知症には12の修正可能な危険因子があり、**難聴はもっとも影響力の大きな危険因子**であると指摘されています。

〈認知症を引き起こす可能性のある12の危険因子〉



出典：ランセット国際委員会

トピックス

02 難聴を放置すると認知症リスクが最大5倍に

難聴と認知症発症の関係性を追跡した調査によると、難聴の方は聴力が正常な人に対し、**約2～5倍、認知症発症リスクが高い**ことが分かりました。

〈難聴を放置した場合の認知症発症リスク〉



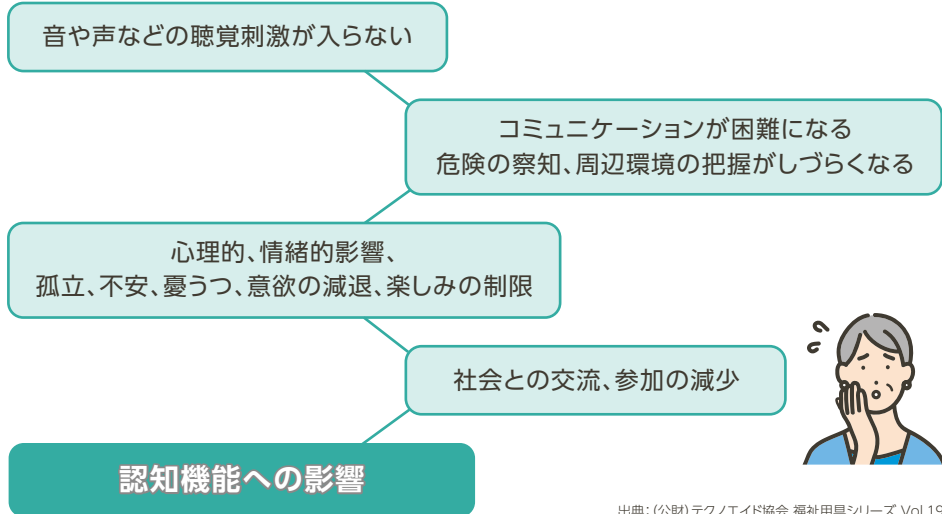
出典：Lin, F. R., Metter, E. J., O'Brien, R. J., Resnick, S. M., Zonderman, A. B., & Ferrucci, L. (2011). Hearing loss and incident dementia. Archives of neurology, 68(2), 214-220.

トピックス

03 難聴が認知症を引き起こす理由

難聴になるとすぐに認知症になるわけではありませんが、難聴により周囲からの情報量が減ってしまうと、対人関係や社会生活に消極的になり、結果、**認知機能に影響が出る可能性がある**といわれています。

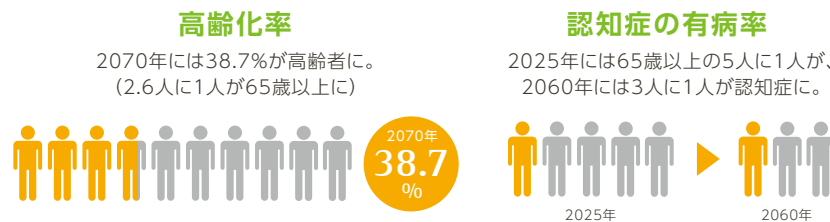
〈聴覚障害による影響の広がり〉



出典：(公財)テクノエイド協会 福祉用具シリーズ Vol.19

知っていますか？ 日本の現状

高齢化が進む日本ですが、すでに高齢化率（総人口に占める65歳以上の割合）が2022年には29%を超え2070年には38.7%になると予想されています。さらに65歳以上の高齢者の認知症の有病率は、2025年には20%、2060年には33.3%に達するとみられています。



出典：内閣府のデータにより、令和5年版高齢社会白書、平成29年 高齢社会白書

フォナック補聴器で、聞こえるしあわせに満ちた毎日を。

難聴の改善は、認知機能や生活の質と深く関わっています。

補聴器をつけると家族の関係にも好影響が生まれます。

補聴器使用歴のない難聴者を対象に、補聴器導入前および使用6ヶ月後の比較を行った結果、聞こえにくさに理解があるはずの家族・親族とのコミュニケーションにすら難聴者は支障を感じており、**補聴器装用が家族・親族との関係性によい変化をもたらした可能性**があることが分かりました。



出典:内田ら(2021). プロダクティブ・エイジング(生産的高齢化)社会の実現に向けた難聴者への補聴器導入—補聴器を始めたシニアの変化. 日耳鼻 124: 1452-1456

補聴器の常用で寿命が伸びる可能性が報告されました。

南カリフォルニア大学は2024年1月、「難聴は死亡リスクを高くする一方、難聴の程度に関わらず補聴器を常用している成人の難聴者は、補聴器を使用していない成人の難聴者に比べて死亡リスクが低くなることが示された」との研究結果をアメリカの医学雑誌に発表しました。

聴力の低下で
死亡リスクが高くなる
可能性がある。



補聴器の常用で
死亡リスクが低下する
可能性がある。

出典:Choi, J. S., Adams, M. E., Crimmins, E. M., Lin, F. R., & Ailshire, J. A. (2024). Association between hearing aid use and mortality in adults with hearing loss in the USA: a mortality follow-up study of a cross-sectional cohort. The Lancet Healthy Longevity, 5(1), e66-e75.

難聴はご家族の方と一緒に向き合うことが大切です。

加齢性難聴は徐々に進行することが多く自分では気づきにくいことも。**「最近聞き返が多い?」**と家族に確認することで自身の難聴進行度を把握できます。



聞き取りにくい場合、ご家族の方には**ゆっくり、はっきり、区切って**話してもらうようにしましょう。



初めて耳鼻咽喉科や補聴器販売店に行く場合は**ご家族の方と一緒に**行くことをおすすめします。



多くの方が補聴器のある生活に満足されています。

補聴器使用者の

97%が

補聴器の使用により生活の質が改善したと回答

補聴器使用者の

77%が

安心して街中を歩けるようになったと回答

補聴器の満足度

ベスト3

- 1対1での会話
- 家族との団らん
- 子供と話すとき

出典:一般社団法人 日本補聴器工業会 JapanTrak 2022 調査報告書

フォナック補聴器を用いて海外ではこんな研究も進んでいます！

最新の研究結果(2023年)

アチーブ

ACHIEVE研究：米国における難聴の高齢者の認知機能低下を軽減するための聴覚ケアと健康指導

認知機能低下のリスクが高い高齢者グループでは、補聴器装用などの聴覚ケアにより3年間の

認知機能の低下が抑制された可能性がある。



世界的医学雑誌
ランセット誌に
掲載

出典:Lin, F.R., Pike, J.R., Albert, M.S., et al. (2023). Hearing intervention versus health education control to reduce cognitive decline in older adults with hearing loss in the USA (ACHIEVE): a multicentre, randomised controlled trial. Lancet (London, England), S0140-6736(23)01406-X.

エンハンス

ENHANCE研究：オーストラリアにおける難聴の高齢者の認知機能に関する3年間の追跡調査

補聴器装用による聴覚ケアは**認知機能の低下を遅らせる可能性**がある。



出典: Sarant, J., et al. (2023). Cognitive Function in Older Adults with Hearing Loss: Outcomes for treated vs untreated groups at 3-year follow-up [Conference presentation]. AAIC 2023 Conference, Amsterdam, Netherlands.

難聴かな?と思ったら、 聞こえについて考えてみませんか。



1つでも当てはまるものがあれば、
難聴の可能性が考えられます。

フォナックでは聞こえの程度を簡易的に確認できる
「聞こえのオンラインチェック」を
ご用意しております。

詳しくはこちらから >>>



〈聞こえの自己診断〉

- 会話中に相手の話を聞き返すことがある。
- 小声やささやき声が聞き取りにくい。



- テレビやラジオの音量が大きいと家族によく指摘される。
- 会話が聞き取れず、あいまいに相づちを打つことがある。
- 自分の後ろでの会話に気づかないことがある。



- 会話の中で相手の声がよく聞き取れない。
- 病院や銀行で名前を呼ばれても気づかないときがある。
- 大声での会話や耳もとで話してもらわないと聞き取れない。



- 正面から大声で話しかけられても聞こえないときがある。
- 目の前の電話の呼び出し音が聞こえないときがある。



〈難聴(聴覚障害)の程度分類と補聴器の必要性〉

軽度難聴
聞き返が多い

普段の生活で聞き間違いによるトラブル
や仕事に支障のある方は、補聴器の使用
を検討されてみてはいかがでしょうか。

中等度難聴
大きめの声でなければ
聞こえない

聞こえが気になりコミュニケーションが
上手くいかないと、精神的にもストレス
が溜まりご家族にも負担がかかります。

高度難聴
耳もとで大きな声で
話さないと聞こえない

日常生活で聞き取ることが困難な状況に
なり、周囲の人たちと疎遠になってしまう
前に補聴器の使用をおすすめします。

重度難聴
耳もとでの大声も
理解できないときがある

著しく生活に支障をきたすおそれがあり
ます。早急に補聴器を使用されることを
おすすめします。

◎聴力レベルの推定と補聴器の必要性のコメントはあくまでも目安です。難聴(聴覚障害)の程度分類は、日本聴覚医学会難聴対策委員会の報告に基づいて記載してあります。◎補聴器を装着することで、難聴が進行することはありません。補聴器は、個々の難聴や「聞こえ」の程度に合わせて調整(フィッティング)することが必要です。補聴器は適切なフィッティング調整により、その効果が発揮されます。しかし、装着者の「聞こえ」の状態によっては、その効果が異なる場合があります。◎詳しくは耳鼻科の専門医もしくは補聴器取扱店にご相談ください。



補聴器は医療機器です。
個々の難聴や聞こえの程度に合わせて調整することが大切です。
聞こえが気になった方は、一度聴覚専門家に相談してみませんか？